

# 神戸大、県立大生が豊岡訪問

## 企業戦略、現場で学ぶ



かばん作りの現場を見学する大学生ら＝豊岡市上陰

域企業の取り組みに触れてもらうのが目的。県内企業と大学生をつなぐ神戸新聞社「エムラボ」事業の一環で、県内4大学や県、企業団体などによる、地域課題解決への取り組み「ひょうご神戸プラットフォーム」の取り組みも兼ねている。

城崎温泉街（豊岡市城崎町）では、旅館などを経営する「西村屋」の西村総一郎社長が講義。著名作家が書いた地域限定本を販売したり、城崎国際アートセンターなどができたりする新たな動きが、観光振興に一役買っていると説明した。西村屋で進める、英語

力のある従業員を、積極的に外国人客の対応に当たらせる仕組みなども紹介した。

かばん製造業「由利」（同上陰）では、学生たちが作業所内を見学。国内外で高く評価される豊岡のかばん作りが、職人気質だけでなく、新機械を導入するな

ど、不断の努力に支えられている様子も学んだ。

神戸大3年の宮澤広太郎さん(21)は「ほそぼそと営んでいるという、地方企業へのイメージが変わった。熱い思いを持った人たちの、生の声を聞けてよかった」と話した。

（秋山亮太）



神戸大と兵庫県立大の学生20人が豊岡市を訪れ、地

元企業を見学したり、行政の担当者から話を聞いたりするイベント「地方がおもしろくなる大学ゼミバスツアー」が29日、同市内で開かれた。

学生らに、地方創生や地